

2004年8月10日

**2005年3月期第1四半期財務・業績の概況**

**東レ株式会社**  
**代表取締役社長 榊原定征**

# 目次

- ・“プロジェクト NT - ” (P3-4)
- ・2005年3月期 第1Q連結業績の概要 (P5)
- ・事業セグメント別売上高・営業利益 (P6-12)
- ・営業利益増加要因分析 (P13)
- ・2005年3月期中間期連結業績見通し (P14)
- ・リスクファクターとその対応 (P15-17)
- ・事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し (P18-19)
- ・蝶理(株)・水道機工(株)の連結子会社化の影響 (P20-25)
- ・最近のトピックス (P26-27)
  
- < 参考資料 > (P28-38)

# “プロジェクト NT- ”の主要課題

## 経営課題

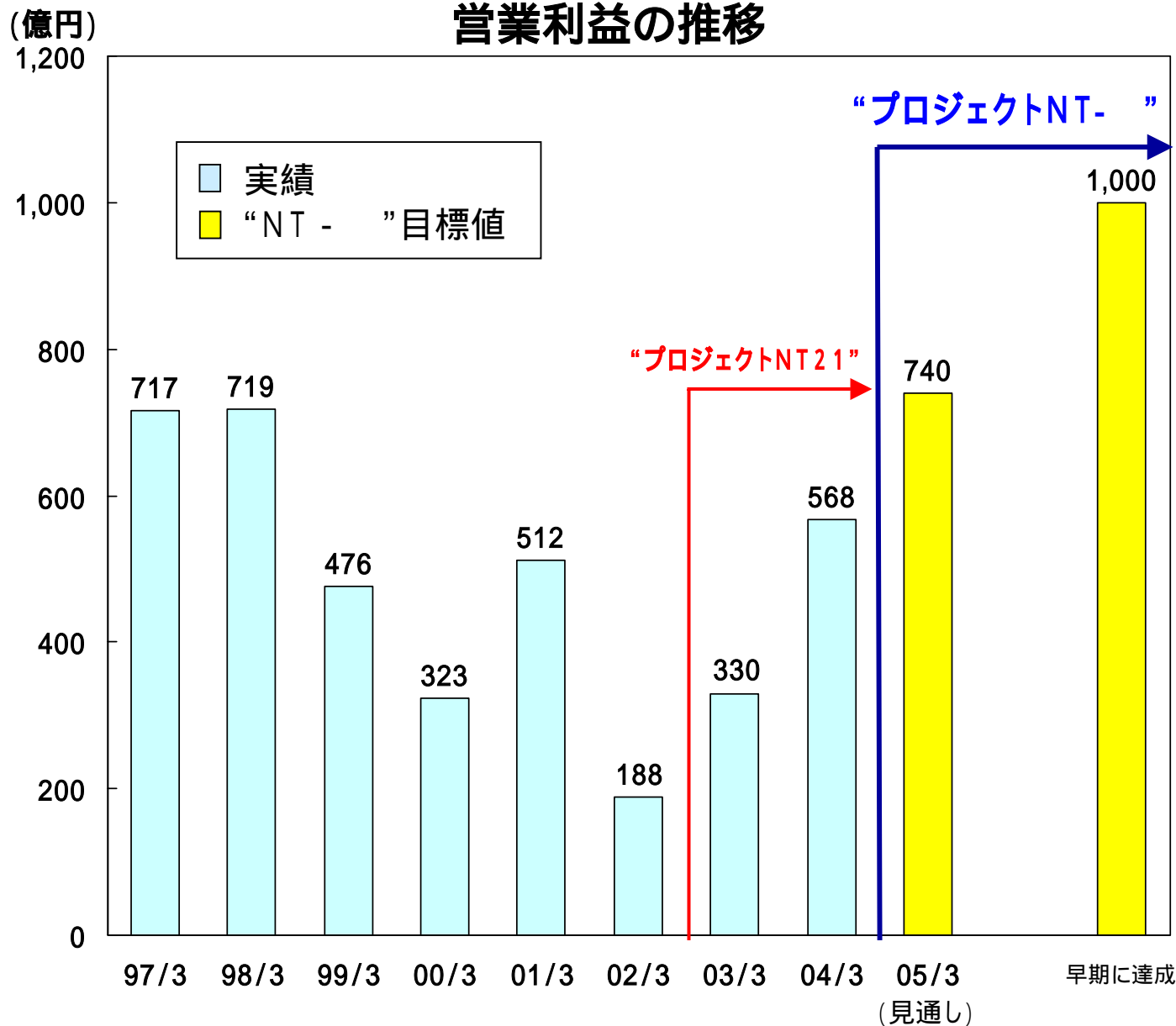
<p>意識改革・ 企業体質 強化</p>	<p>“<b>守り</b>”の 経営課題</p>	<p>1. 意識改革 - 活性化、CSRの推進 - 2. 体質強化 - 国際競争力の強化 - 3. 経営形態の改革</p>
<p>事業構造 改革による事業 拡大・収益 拡大</p>	<p>“<b>守り</b>”と “<b>攻め</b>”の 経営課題</p>	<p>4. 事業構造改革</p>
	<p>“<b>攻め</b>”の 経営課題</p>	<p>5. 先端材料事業の拡大 6. ナンバーOne事業の 拡大・強化 7. 海外事業の拡大</p>

守りの経営を維持しながら攻めの経営を推進

連結営業利益1,000億円の早期達成

グローバルな高収益企業グループへの飛躍

# “プロジェクト NT- ”の数値目標



営業利益1000億円  
達成時の主要財務  
指標イメージ

売上高営業利益率  
約8%

ROA: 約7%

ROE: 約10%

D/Eレシオ: 1.0以下

# 2005年3月期第1Q連結業績の概要

単位:億円

	04年3月期 第1Q	05年3月期 第1Q	増減	
売上高	2,517	2,721	+204	(+8.1%)
売上原価	1,976	2,105	+129	(+6.5%)
売上総利益	541	616	+75	(+13.8%)
(売上高総利益率)	21.5%	22.6%	+1.1	ポイント
販売費及び 一般管理費	447	455	+8	(+1.7%)
(売上高販管費比率)	17.8%	16.7%	-1.1	ポイント
営業利益	94	161	+67	(+71.2%)
(売上高営業利益率)	3.7%	5.9%	+2.2	ポイント
営業外収支	10	4	+14	( - )
経常利益	84	165	+81	(+96.4%)
特別損益	-	11		
四半期純利益	-	88		
	04年3月末	04年6月末	増減	
総資産	12,953	12,841	-112	(-0.9%)
株主資本	4,142	4,212	+70	(+1.7%)
有利子負債	4,945	4,834	-111	(-2.2%)

(注) 3月期決算会社は4～6月の業績, 12月期決算会社は1～3月の業績を連結

# 事業セグメント別売上高・営業利益

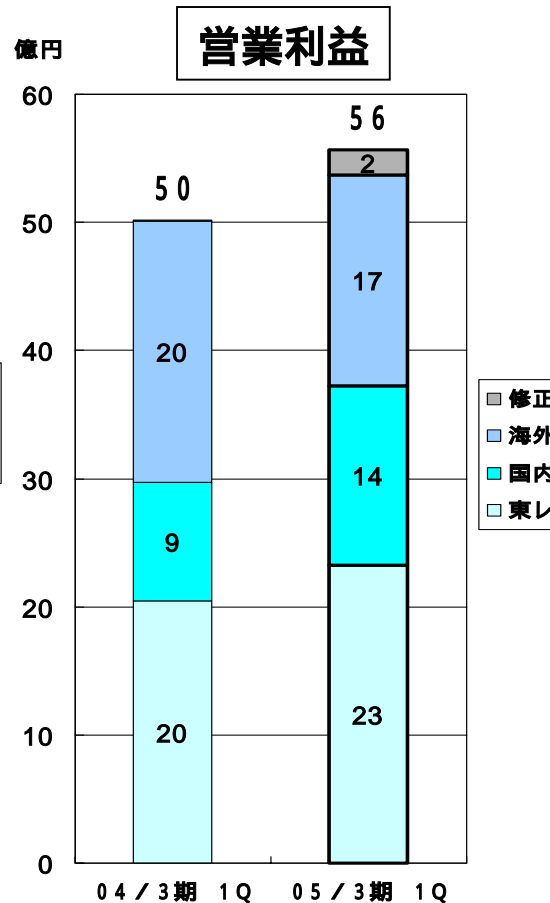
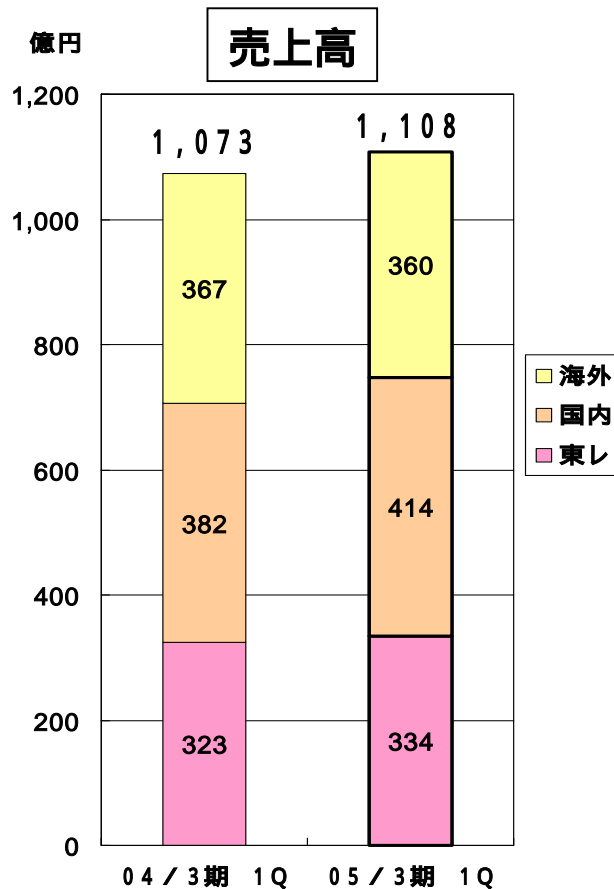
億円

	売上高			営業利益			特記事項
	04 / 3 第1Q	05 / 3 第1Q	増減	04 / 3 第1Q	05 / 3 第1Q	増減	
繊維	1,073	1,108	+35 (+3.3%)	50	56	+5 (+10.9%)	国内は、価格転嫁と高採算品へのシフト、NVC拡大、体質強化の推進により、増収増益。海外は、アジア会社が体質強化を進め増益となるも、欧州子会社の不振により減収減益。
プラスチック・ケミカル	648	653	+5 (+0.7%)	13	30	+17 (+126.5%)	国内の樹脂・フィルムは、拡販に努め増収増益。ケミカルは、ラクタムの外販を縮小したため減収ではあるが増益。海外は、アジア・欧米とも拡販と高採算用途へのシフトを進め増収増益。
情報・通信機材	396	518	+122 (+30.8%)	32	67	+35 (+110.5%)	国内は、IT関連樹脂・フィルム、電子材料等いずれも好調に推移し、子会社のIT関連機器が大幅に伸びたことにより、増収増益。海外は、韓国の回路材料関連事業中心に増収増益。
住宅・エンジニアリング	149	160	+11 (+7.6%)	12	10	+2 (-)	建設子会社、エンジニアリング子会社とも拡販に努めるとともに、他の子会社も体質強化を進め増収・収益改善。
医薬・医療	101	99	-2 (-2.2%)	0	4	-4 (-)	医薬事業は薬価改定の影響により減収減益。国内子会社は、医療材の拡販により増収・収益改善。
新事業その他	151	184	+33 (+21.9%)	11	22	+11 (+99.8%)	炭素繊維複合材料は、欧米の航空宇宙用途、産業用途、アジアのスポーツ用途へ拡販を進めるとともに値戻しを進め増収増益。
(内、炭素繊維複合材料)	95	106	+11 (+11.9%)	10	15	+6 (+61.3%)	サービス関連子会社も、増収増益。
計	2,517	2,721	+204 (+8.1%)	94	161	+66 (+70.3%)	
消去又は全社				0	1	+1	
連結	2,517	2,721	+204 (+8.1%)	94	161	+67 (+71.2%)	

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04/3月期 第1四半期についても同組み替え分を修正している。

# 事業セグメント別業績(繊維)



## 特記事項

### 東レ

体質強化の継続と価格転嫁の推進、さらには高採算品へのシフト及び New Value Creator 拡大などによる事業構造改革が着実に進展し、増収増益。

### 国内子会社

商事子会社(TI)の収益拡大、また各社の体質強化もあり増収増益。

### 海外子会社

アジア子会社が体質強化を進め増益なるも、欧州子会社の不振により、全体で減収減益。

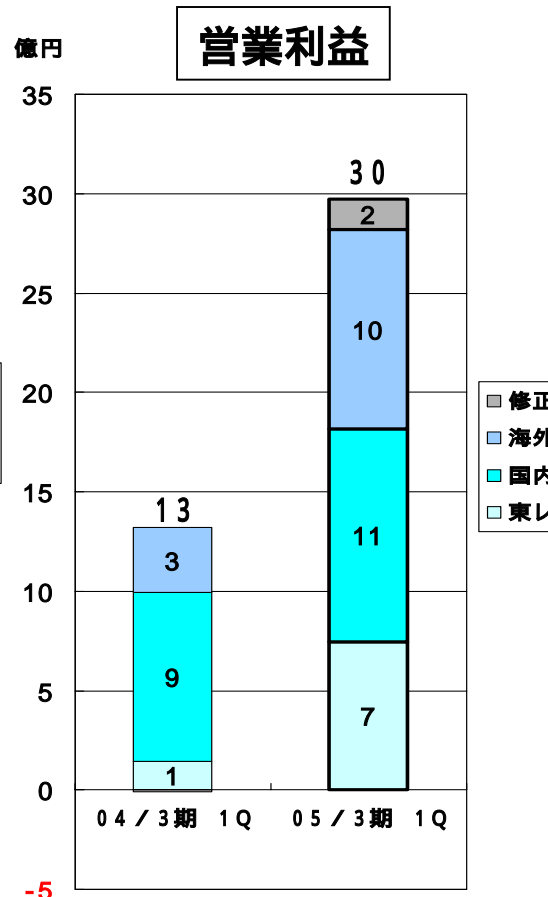
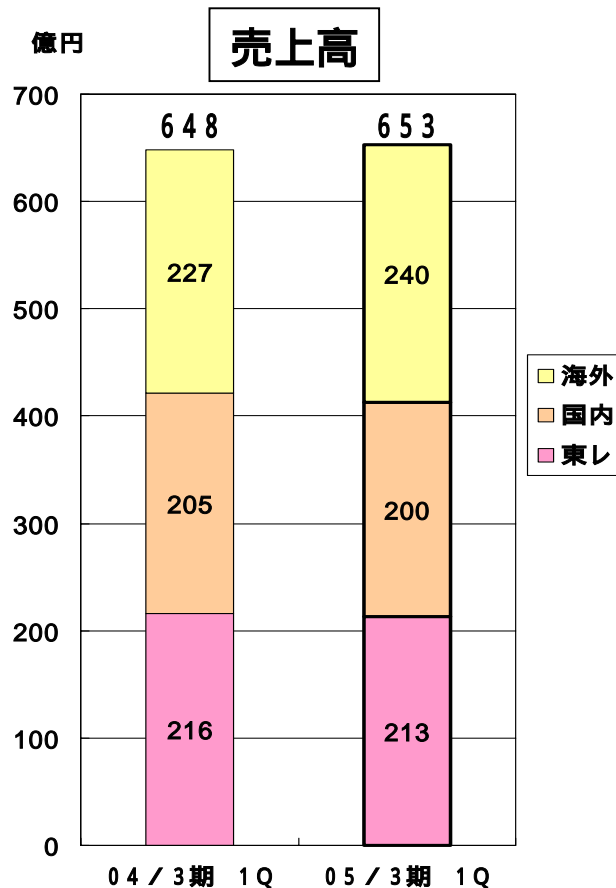
### < 主要子会社 >

国内: 東レインターナショナル, 一村産業 他

アジア: ITS(インドネシア), LUCKYTEX(タイ), PENFABRIC(マレーシア), TFNL, TAK(中国) 他

欧米: ALCANTARA(イタリア) 他

# 事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



## 特記事項

### 東レ

樹脂は、自動車用途、電機用途が、フィルムは、工業材料用途が堅調に推移。ケミカルは、ラクタム縮小により減収。全体として減収増益。

### 国内子会社

フィルム加工子会社が事業構造改革を推進したことなどにより増益。

### 海外子会社

マレーシアのABS樹脂子会社、および仏、米、韓のPETフィルム子会社の高採算用途へのシフトなどや体質強化進展により、海外全体で増収増益。

### <主要子会社>

国内： 曾田香料，東レ・ファインケミカル，東レフィルム加工 他

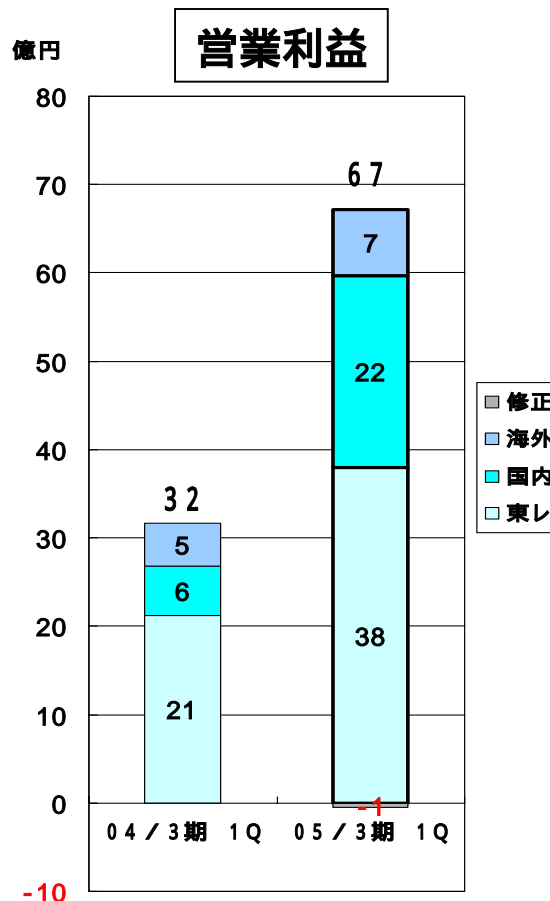
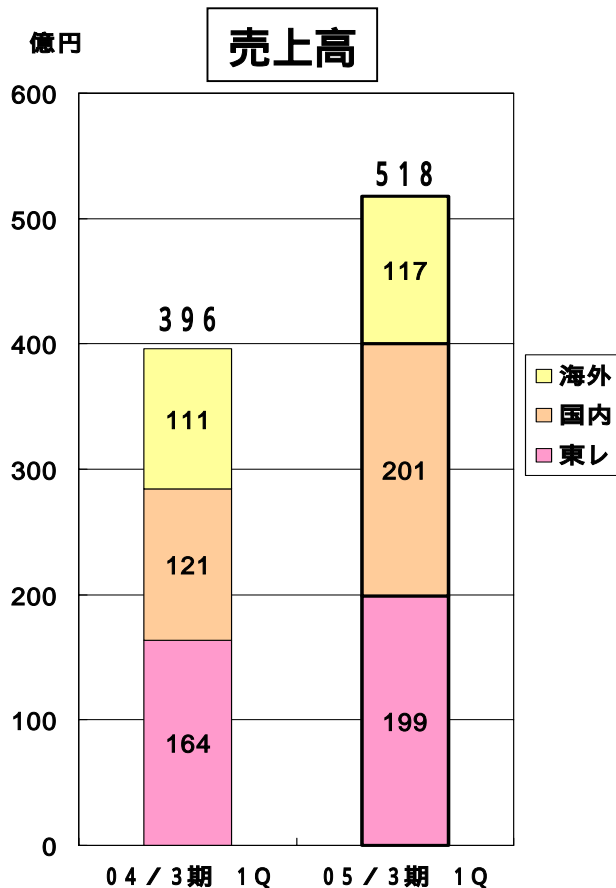
海外： TPA(アメリカ)，TSI(韓国)，TPEU(フランス)，TPM(マレーシア) 他

(注)東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04/3期 第1四半期についても同組み替え分を修正している。



# 事業セグメント別業績(情報・通信機材)



## 特記事項

### 東レ

IT関連の樹脂・フィルム、回路材料、液晶カラーフィルターなどがデジタル関連製品需要の急速な拡大を背景に増収増益。

### 国内子会社

IT関連事業で液晶カラーフィルター製造装置(スリットコーター)の本格販売を開始し、フィルム加工子会社も好調に推移したことから大幅な増収増益。

### 海外子会社

韓国の回路材料関連子会社を中心に増収増益。

### < 主要子会社 >

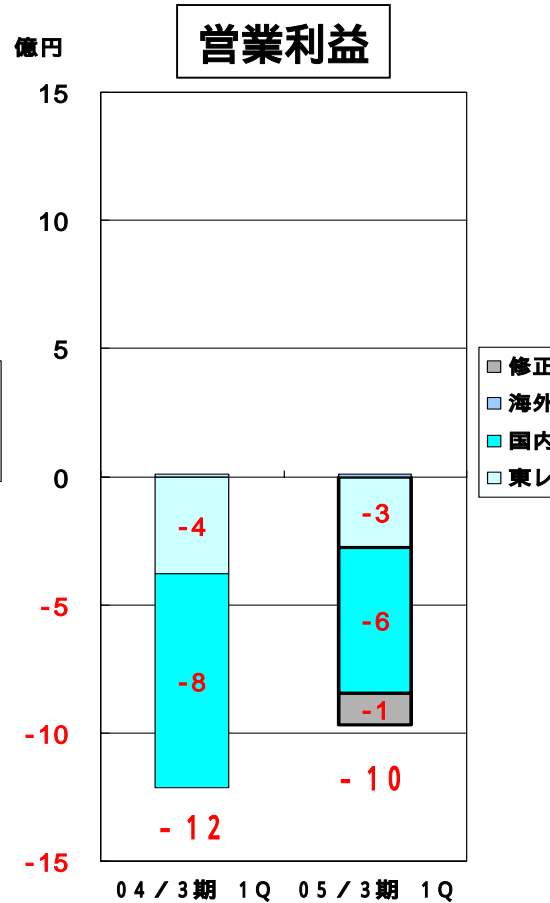
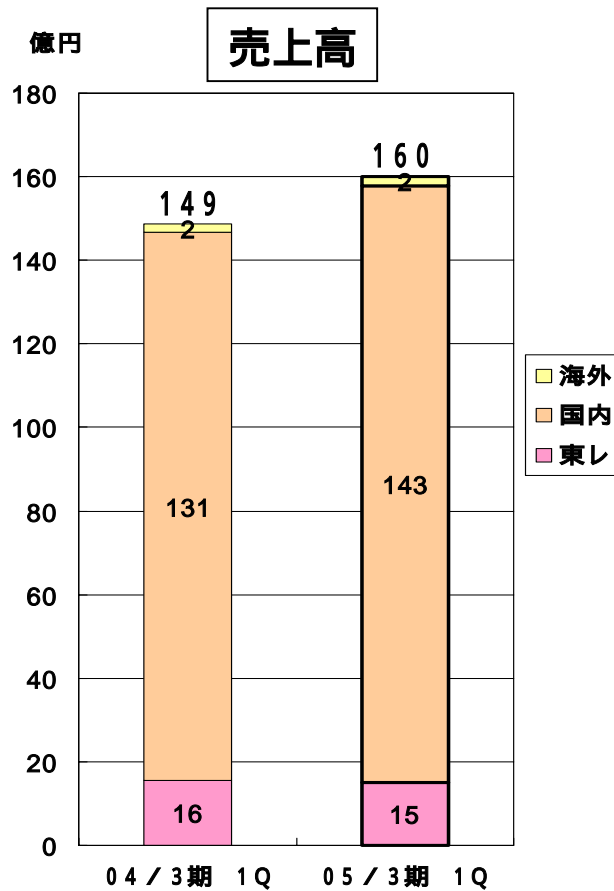
国内: 東レエンジニアリング, 東レフィルム加工 他

海外: TSI(韓国), TPA(アメリカ), TPEU(フランス) 他

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04/3期 第1四半期についても同組み替え分を修正している。

# 事業セグメント別業績(住宅・エンジニアリング) **TORAY**



## 特記事項

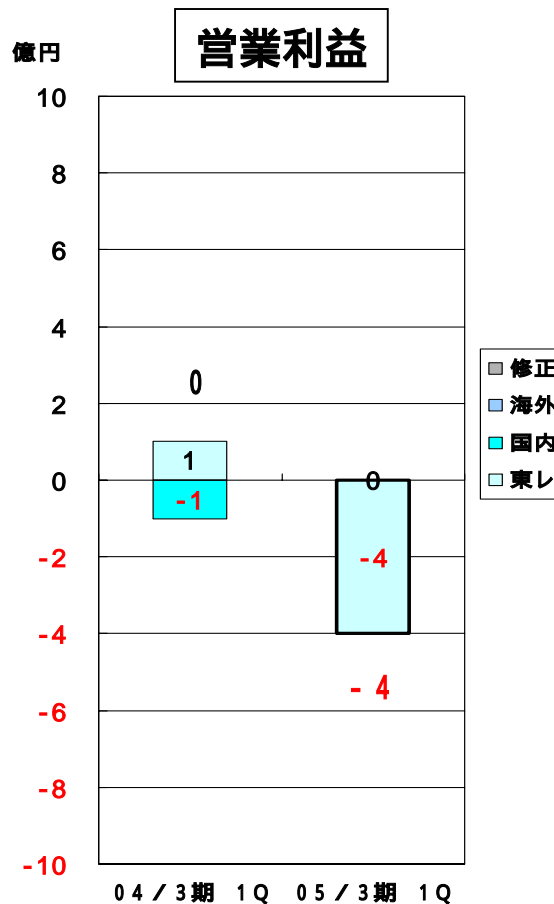
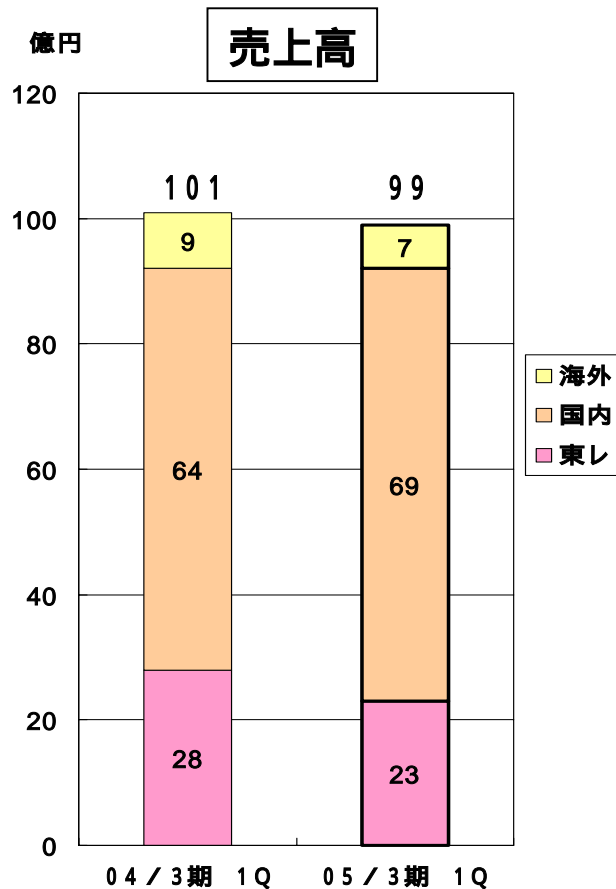
### 国内子会社

建設子会社がマンション販売を伸ばすと共に、他の各社も体質強化を推進したことにより、増収・収益改善。

### < 主要子会社 >

国内: 東レ建設, 東レエンジニアリング 他

# 事業セグメント別業績 (医薬・医療)



**特記事項**

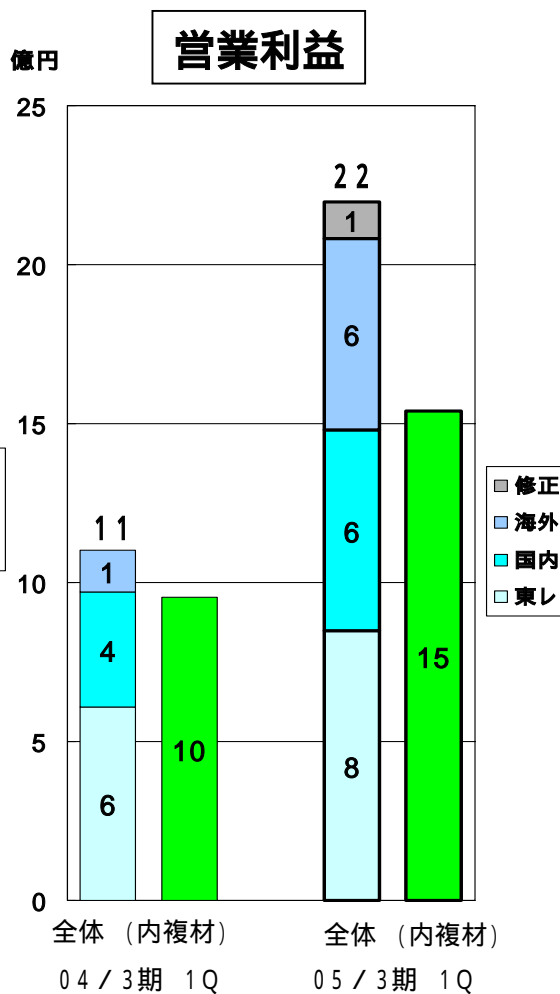
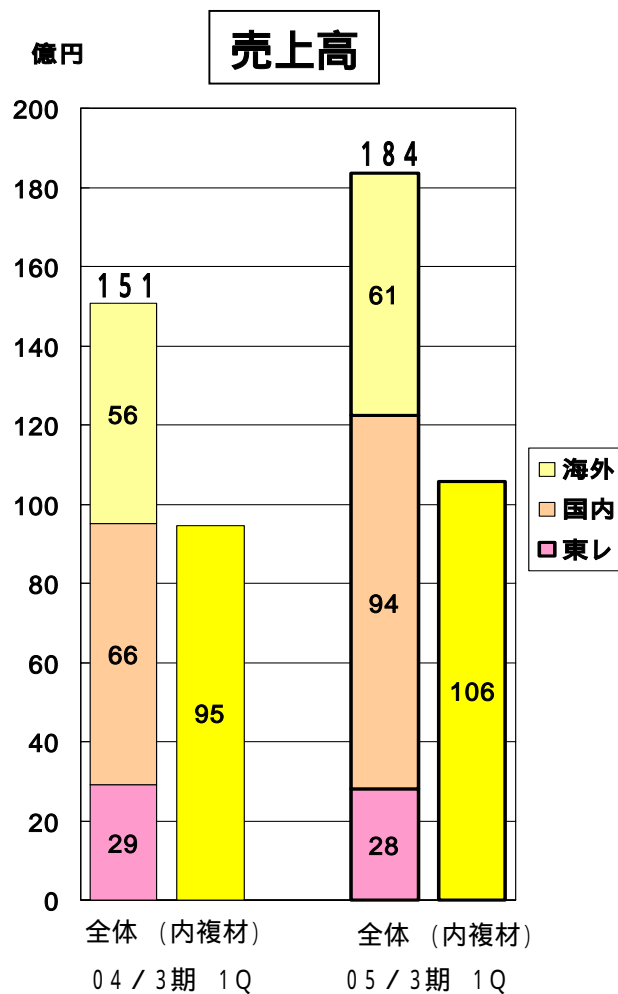
**東レ**  
 医薬事業は薬価改定の影響により減収減益。

**国内子会社**  
 医療材の拡販により増収・収益改善。

< 主要子会社 >

国内： 東レ・メディカ

# 事業セグメント別業績(新事業その他)



## 特記事項

### 東レ

主力の複合材料事業を含め、前年同期並で推移し、売上横這いながら増益。

### 国内子会社

商事子会社が、売上を伸ばすとともに、サービス関連子会社も順調に推移し、増収増益。

### 海外子会社

主力の複合材料事業では、炭素繊維の世界的な市況回復傾向を受けて、欧米の航空宇宙用途、産業用途向けに拡販するとともに、値戻しも実現し、増収増益。

### < 主要子会社 >

国内：東レリサーチセンター、東レインタープライズ 他  
海外：SOFICAR (フランス) 他

# 営業利益増加要因分析

億円

< 04 / 3期 1Q      05 / 3期 1Q >

	前年同期比		
	東レ	子会社	合計
先端材料・NVC <sup>*</sup> の拡大、生産・営業効率改善(原単位・品種構成改善など)、販売量・生産量増など	+22	+32	+54
TCプロジェクト効果(製造固定費・外注加工費・購買物流費・本社費・営業費の削減、要員効率化など)	+4	+11	+15
販売価格アップ・原料価格アップの影響など(ネット)	-2	+0	-2
<b>合 計</b>	<b>+24</b>	<b>+43</b>	<b>+67</b>

\* NVC: New Value Creator

# 2005年3月期中間期連結業績見通し



億円

	前年同期 実績	今回見通し	増減	期初見通し	増減
売上高	5,343	5,800	+457 (+8.5%)	5,500	+300 (+5.5%)
営業利益	247	320	+73 (+29.4%)	290	+30 (+10.3%)
経常利益	230	320	+90 (+39.3%)	290	+30 (+10.3%)
中間純利益	109	170	+61 (+55.3%)	150	+20 (+13.3%)

(注) 通期の業績予想につきましては、中間決算発表時に見直しを行う予定です。

リスクファクターを常に意識し、業績への影響を極小化するために早め早めの対応をとる。

## <リスクファクター>

## <影響を極小化するための施策・戦略>

原料(PTA、EG、AN等)価格の高止まり、更なる値上がり

- 購買・営業間の情報を密にすることにより早めの価格転嫁を実施する。
- 原料価格連動型の販売価格契約。
- 高付加価値品へのプロダクトミックスのシフト。

IT関連機器需要の減速の懸念

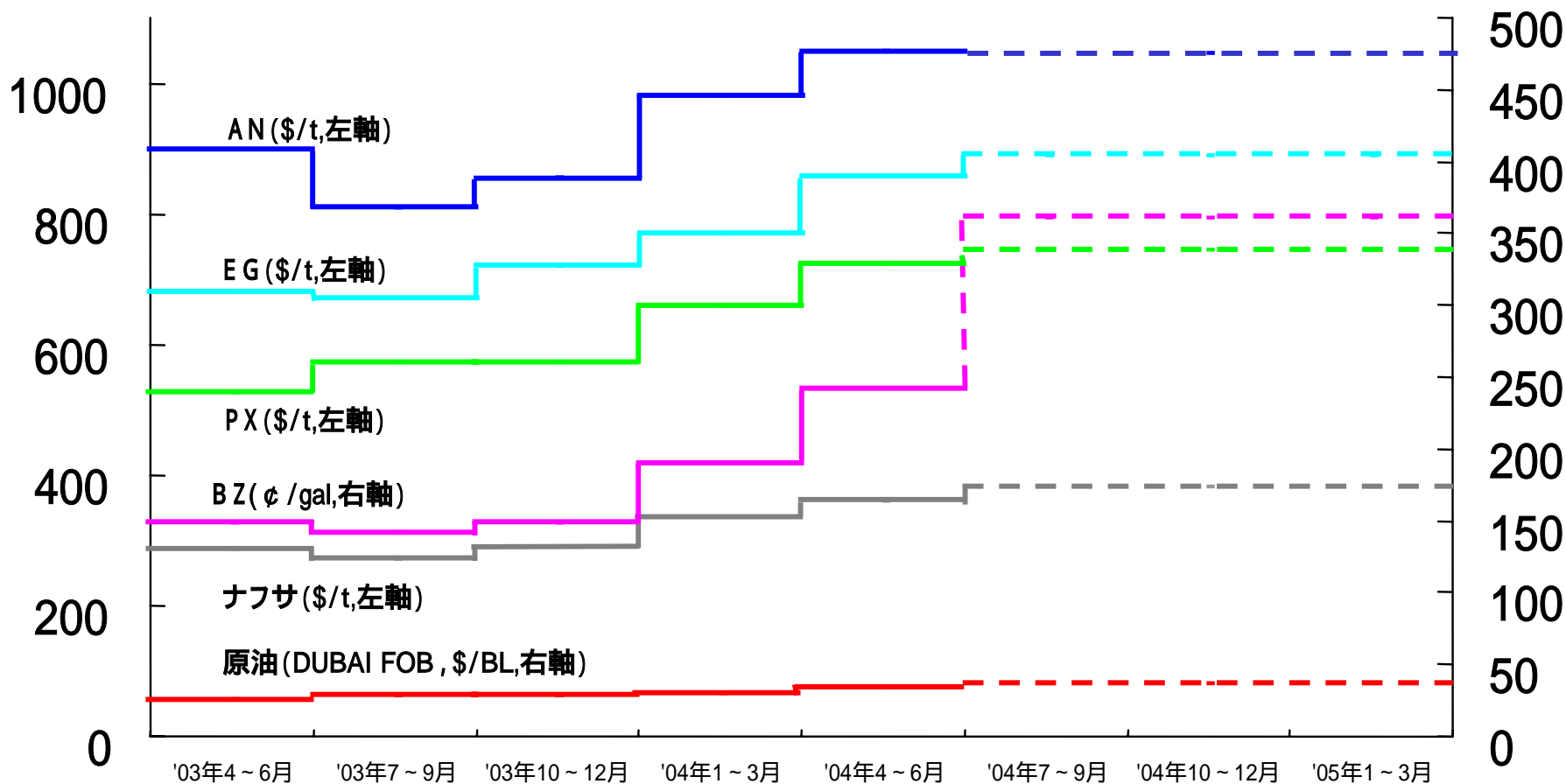
- New Value Creatorの推進により顧客からの情報を早めに察知し、顧客ニーズの高い付加価値品の開発に繋げる。
- 長期供給契約により安定した収益を確保。
- 値下げ抵抗力のあるナンバーワン製品を拡大。

米国やアジア・中国景気の減速

- “プロジェクト NT - ”の着実な実行による、景気に左右されにくい企業体質の構築。

原油ならびに主要な原料価格は上昇が続いており、今後も04年7～9月の高水準で高止まって推移すると見込む。

### 原油および粗原料価格の推移





リスクファクターを常に意識し、業績への影響を極小化するために早め早めの対応をとる。

## <リスクファクター>

## <影響を極小化するための施策・戦略>

原料(PTA、EG、AN等)価格の高止まり、更なる値上がり

- 購買・営業間の情報を密にすることにより早めの価格転嫁を実施する。
- 原料価格連動型の販売価格契約。
- 高付加価値品へのプロダクトミックスのシフト。

IT関連機器需要の減速の懸念

- New Value Creatorの推進により顧客からの情報を早めに察知し、顧客ニーズの高い付加価値品の開発に繋げる。
- 長期供給契約により安定した収益を確保。
- 値下げ抵抗力のあるナンバーワン製品を拡大。

米国やアジア・中国景気の減速

- “プロジェクト NT - ”の着実な実行による、景気に左右されにくい企業体質の構築。

# 事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し



## 前年同期比

億円

	売上高			営業利益			特記事項
	前年同期実績	今回見通し	増減	前年同期実績	今回見通し	増減	
繊維	2,134	2,220	+86 (+4.0%)	94	100	+6 (+6.1%)	国内は、付加価値品の拡販、原料高に対する価格転嫁を進め、前年同期を上回る見通し。海外は、アジア子会社が拡販を進め前年同期を上回る見通しだが、欧州子会社は前年同期を下回る見通し。
プラスチック・ケミカル	1,274	1,330	+56 (+4.4%)	43	50	+7 (+15.8%)	国内は、樹脂の自動車・電機用途、フィルムの工材、包材とも堅調に推移し前年同期を上回る見通し。海外は、アジアの樹脂・フィルム子会社が値上げと拡販するが、原料高の影響もあり利益は前年同期並みを見込む。
情報・通信機材	834	1,100	+266 (+31.9%)	69	125	+56 (+80.8%)	国内は、樹脂・フィルム、電子材料、液晶カラーフィルター等が好調に推移するとともに、子会社の機器の拡販により前年同期を大幅に上回る見通し。海外は、韓国の回路材料関連子会社を中心に、前年同期を上回る見通し。
住宅・エンジニアリング	543	560	+17 (+3.2%)	3	5	+2 (+51.5%)	建設子会社は、当中間期はマンション完工が下期に集中するため前年同期を下回る見通しであるが、エンジニアリング子会社は、民間プラント事業が好調に推移し、前年同期を上回る見込み。
医薬・医療	220	200	-20 (-9.1%)	7	0	-7 (-100.0%)	医薬事業は、薬価改定の影響により前年同期を下回る見通し。
新事業その他	339	390	+51 (+15.0%)	27	40	+13 (+48.3%)	炭素繊維複合材料は、欧米の航空宇宙用途、産業用途、アジアのスポーツ用途が好調に推移するとともに値戻しを進め、前年同期を上回る見通し。国内サービス関連子会社は堅調に推移し、前年同期を上回る見通し。
(内、炭素繊維複合材料)	181	220	+39 (+21.3%)	18	30	+12 (+64.8%)	
	5,343	5,800	+457 (+8.5%)	244	320	+76 (+31.3%)	
消去又は全社				4	0	-4	
連結	5,343	5,800	+457 (+8.5%)	247	320	+73 (+29.4%)	

(注)東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当第1四半期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04/3月期中間期についても同組み替え分を修正している。

# 事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し



## 期初見通し比

億円

	売上高			営業利益			特記事項
	期初見通し	今回見通し	増減	期初見通し	今回見通し	増減	
繊維	2,140	2,220	+80 (+3.7%)	95	100	+5 (+5.3%)	国内は、原料価格上昇の影響はあるが、価格転嫁、高採算品へのシフト、NVCの推進等により期初見通しを上回る見通し。海外は、アジアが原料高の影響、欧米は欧州子会社の不振により期初見通しを下回る見通し。
プラスチック・ケミカル	1,300	1,330	+30 (+2.3%)	45	50	+5 (+11.1%)	国内は、樹脂が自動車・電機等主力用途向けに拡販を進め、フィルムも工業材料・包装材料向けに順調に推移し、期初見通しを上回る見通し。海外は、アジア・欧米ともほぼ期初見通し並の見通し。
情報・通信機材	970	1,100	+130 (+13.4%)	110	125	+15 (+13.6%)	国内は、各製品とも需要は堅調で、期初見通しを上回る見通し。なお、IT関連機器は、第1四半期に販売が集中したため、上期トータルでは期初見通し並の見通し。海外は、ほぼ期初見通し並の見通し。
住宅・エンジニアリング	530	560	+30 (+5.7%)	0	5	+5 (-)	建設子会社、エンジニアリング子会社とも順調に推移し、期初見通しを上回る見通し。
医薬・医療	220	200	-20 (-9.1%)	5	0	-5 (-100.0%)	医薬事業は、競合激化とライセンス収入の遅れにより、期初見通しを下回る見通し。国内子会社は、期初見通し並の見通し。
新事業その他	340	390	+50 (+14.7%)	35	40	+5 (+14.3%)	炭素繊維複合材料は、欧米の航空宇宙用途、産業用途、アジアのスポーツ用途が好調に推移し、期初見通しを上回る見通し。国内サービス関連子会社も堅調に推移し、期初見通しを上回る見通し。
(内、炭素繊維複合材料)	185	220	+35 (+18.9%)	25	30	+5 (+20.0%)	
計	5,500	5,800	+300 (+5.5%)	290	320	+30 (+10.3%)	
消去又は全社				0	0	0	
連結	5,500	5,800	+300 (+5.5%)	290	320	+30 (+10.3%)	

# 蝶理(株)、水道機工(株)の連結子会社化の影響

## 2005年3月期当社連結業績に与える影響の見通し (下期のみ)

億円

	蝶理	水道機工	合計
売上高	+1,140	+135	+1,275
営業利益	+23	+16	+39
経常利益	+15	+15	+30
当期純利益	+5	+3	+8

### <ご参考> 両社の2005年3月期連結業績見通し

	蝶理		水道機工	
	中間期	通期	中間期	通期
売上高	1,250	2,500	50	185
経常利益	20	41	12	4
当期(中間)純利益	16	36	7	1

蝶理：2004年8月6日  
発表に基づく。  
水道機工：2004年7月  
28日発表に基づく。

蝶理株式の過半数 (51.46%) を取得し、蝶理の強みを東レグループの事業戦略に活かし、シナジーを最大限に高める。

## 蝶理の強み

### 1. 繊維・化学品事業における

- ・マーケティング機能
- ・外部からの調達力・販売網
- ・専門性の高い優れた人材

### 2. 国内外、特に中国における

- ・強力な拠点網
- ・営業チャネル
- ・中国事業に精通した人材

## 東レの戦略とのシナジー

### 1. New Value Creatorの推進

原料調達から多段階にわたる開発・加工拠点を有機的に結合し、最終顧客につなぐ新商流の構築を推進する。

### 2. 海外(特に中国)事業の拡大

中国における拠点、チャネル、人材の活用により、繊維ばかりでなく非繊維先端材料の事業拡大を目指す。

### 3. 「東レ合繊クラスター」の強化・発展

蝶理の保有する国内繊維事業のネットワークを活用し、「東レ合繊クラスター」を有機的に結合。

# 蝶理(株)新生経営計画の進捗について

新生経営計画で掲げた「財務体質強化」と「事業収益力の確保」という基本方針に沿って、順調に進捗している。

億円

	02/3月期	03/3月期	04/3月期			05/3月期	
	実績	実績	新生計画	実績	差異	新生計画	業績予想
売上高	4,303	3,673	2,869	2,995	+126	2,553	2,500
営業利益	33	30	44	40	-4	50	-
経常利益	15	14	28	29	+1	41	41
当期利益	18	-49	25	10	-15	37	36
有利子負債	1,303	1,067	454	439	-15	454	380

(注1) 05 / 3期の営業利益予想は公表していない。

(注2) 有利子負債は受取手形割引高含む。

華北・東北、華東、華南のそれぞれの地域に拠点を有し、約170名のスタッフで中国全域をカバーして、繊維・化学品ビジネスを展開。

## 現地法人・駐在員事務所

### 華北・東北ブロック

現地法人2社、駐在員事務所3ヶ所

- ・中央政府とのパイプ
- ・政治、経済のマク情報収集
- ・東北三省、内蒙古を含む広域ビジネスの拠点

### 華東ブロック

現地法人2社、駐在員事務所3ヶ所

- ・繊維、化学品等複合型ビジネス展開
- ・上海周辺の生産拠点と日・米・欧のSCM構築
- ・長江デルタ並びに長江流域のビジネス拠点

### 華南ブロック

現地法人2社

- ・香港、珠江デルタを中心としたビジネス拠点
- ・繊維ビジネスの対米、対欧拠点

中国  
総  
代  
表

## 出資事業

貿易・物流 9社

繊維事業 14社

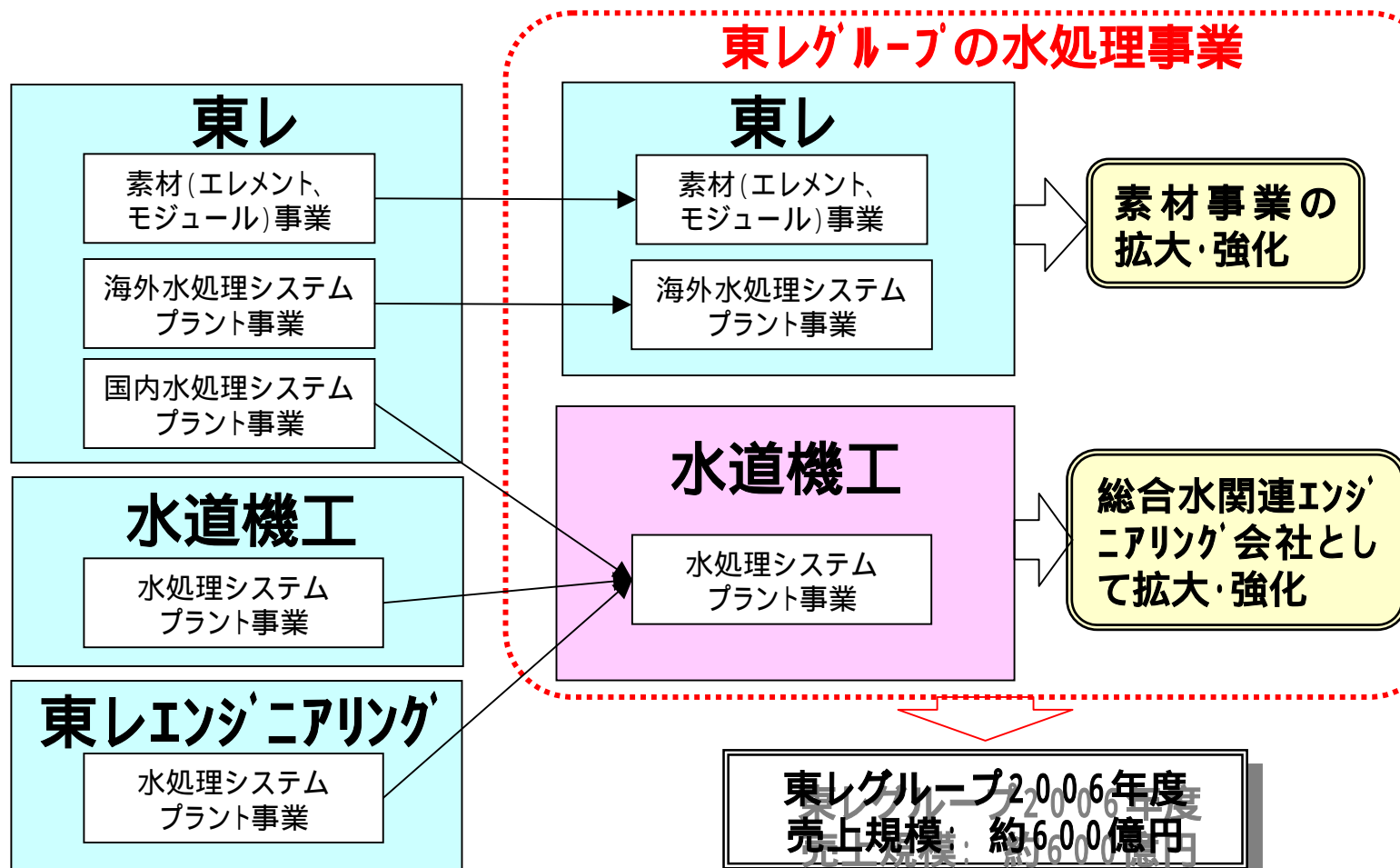
- ・婦人服製造販売
- ・婦人インナーウェア製造販売
- ・シャツ製造販売
- ・ニット製品製造販売
- ・絹燃系製造販売
- 他

化学品事業 10社

- ・炭酸ストロンチウム製造販売
- ・特殊コーティング剤、特殊接着剤製造販売
- 他

# 水道機工(株)の連結子会社化による東レGの水処理事業の強化(1)

水道機工(株)の連結子会社化により、水道機工(株)を東レグループの「総合水関連エンジニアリング事業」の核と位置付け、東レグループの水処理事業を強化する。

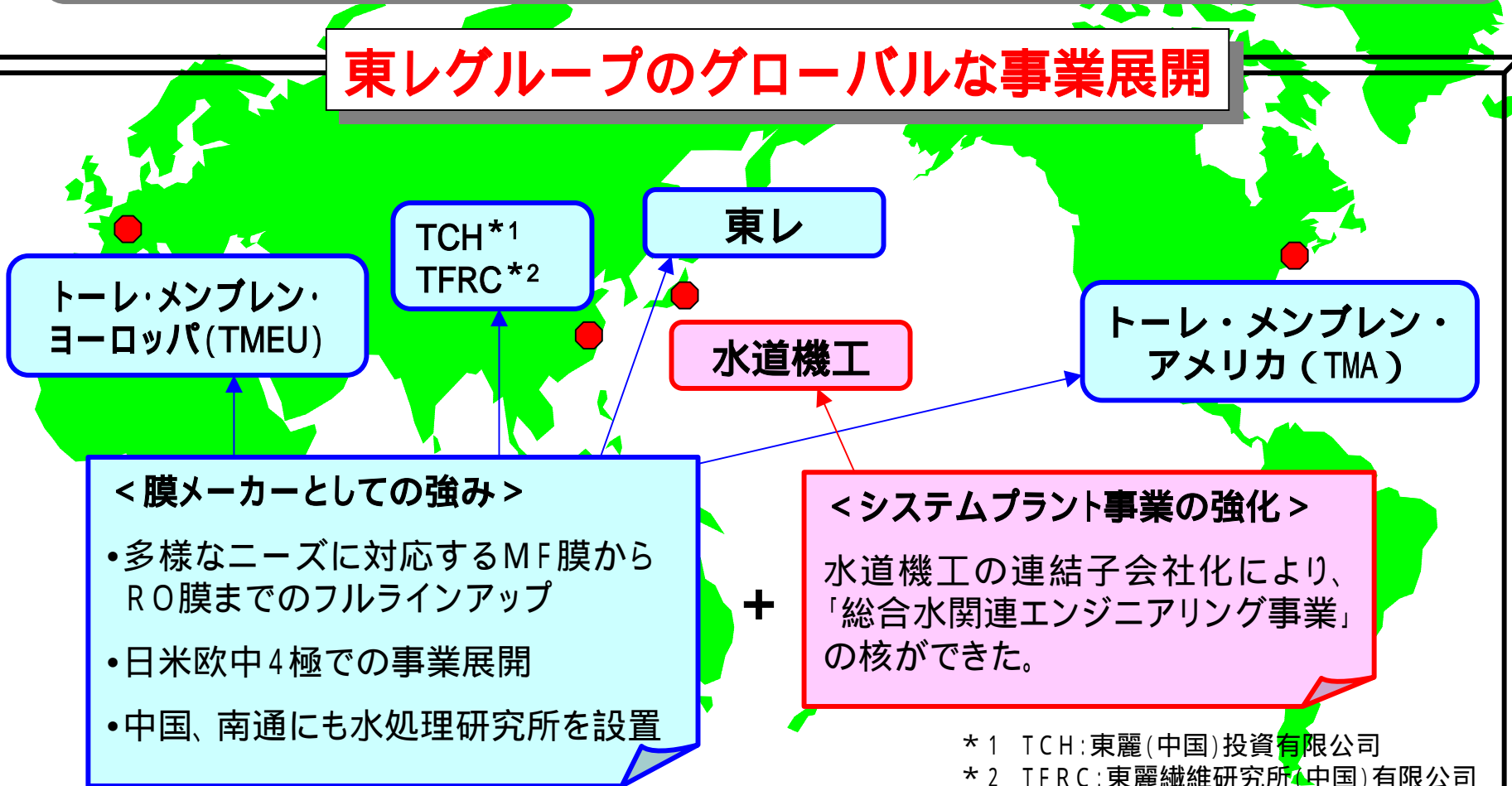




# 水道機工(株)の連結子会社化による東レGの水処理事業の強化(2)

東レグループは、日米欧中4極で展開している水処理膜事業に加え、水処理システムプラント事業を強化することで、総合的な水処理事業を展開する。

## 東レグループのグローバルな事業展開



\*1 TCH:東麗(中国)投資有限公司

\*2 TFRC:東麗纖維研究所(中国)有限公司

# 最近のトピックス(1)

発表 時期	トピックス	NT- の施策				参考資料 ページ
		先端材料 事業拡大	ナンバーOne 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC	
4月	<b>東レインターナショナルの中国縫製事業本格展開</b> 東レインターナショナル社は、縫製大手㈱マツオカコーポレーションとの合併により中国・南通において縫製事業の本格展開を開始。					-
4月	<b>米国における炭素繊維およびプリプレグの生産能力増強</b> 米国CFA社における炭素繊維の増設(1,800トン/年)とプリカーサの重合・製糸設備の新設、および米国TCA社のプリプレグ設備の増設を決定。(2006年初 稼働開始)					P 29 P 30
5月	<b>グループ各社の統合再編によるフィルム加工事業の強化</b> 東洋メタライジング社と東レ合成フィルム社の子会社2社と、東レの包装用フィルム事業の販売業務を統合した東レフィルム加工株式会社の設立を決定。(2004年7月設立)					P 31 P 32
5月	<b>松下プラズマディスプレイ(株)のPDP生産能力増強</b> 松下プラズマディスプレイ社が世界最大規模(300万台/年)のPDP量産工場である第3工場建設を決定。(2005年11月 稼働開始)					P 33 P 34
5月	<b>航空機用炭素繊維複合材料の長期供給契約締結</b> 米ボーイング社と、ボーイング7E7の一次構造材料向け炭素繊維複合材料において長期供給契約を締結。					P 29 P 30
5月	<b>カプロラクタムの生産効率化による体質強化</b> カプロラクタム事業において、名古屋工場の稼働を停止し、東海工場に集約すると共に、低採算の輸出版売を縮小。(2004年6月実施)					P 35
6月	<b>2層FPCフィルムの生産能力増強</b> 東洋メタライジング社が2層フレキシブル基板フィルム“メタロイヤル”の生産能力増強を決定。(53万㎡/年 70万㎡/年) (2004年12月 稼働開始)					-

# 最近のトピックス(2)

発表時期	トピックス	NT- の施策				参考資料ページ
		先端材料事業拡大	ナンバー-One事業拡大	海外事業拡大	事業構造改革, NVC	
6月	<b>「東レ合繊クラスター」の発足</b> 繊維事業において、川中分野における新しいパートナーシップの形として「東レ合繊クラスター」を発足。(2004年10月本格スタート)					P 36
7月	<b>柔軟性PLA(ポリ乳酸)ラップフィルムの開発</b> 当社独自のフィルム微細構造制御技術により、柔軟性のあるPLA(ポリ乳酸:とうもろこしを原料とした環境対応型ポリマー)フィルムの開発に世界で初めて成功。					-
7月	<b>伸縮性に優れた3GT繊維の生産能力増強</b> 東レとオベロンテックス社は、東レの三島工場において、3GT繊維(複合系)の生産設備増設(1,500トン/年 2,500トン/年)を決定。(2005年春 稼働予定)					-
7月	<b>フィルムコンデンサ用極薄OPPフィルムの生産能力増強</b> 土浦工場にハイブリッドカー・コンデンサ用極薄ポリプロピレンフィルム(OPPフィルム)の生産能力増強(18,000トン/年 19,500トン/年)を決定。(2006年5月稼働予定)					P 37
7月	<b>蝶理(株)の連結子会社化</b> 蝶理株式の公開買付けを実施し、出資比率を51.46%に引き上げ、連結子会社化することを決定。繊維事業などでのシナジー、中国市場展開を強化。					P 20 ~ P 23
7月	<b>厚物PETフィルムの生産能力増強</b> 日本、マレーシア、韓国のアジア各拠点で厚物PETフィルムの生産能力増強を決定。(厚物品種の製造能力を2年間で年産7万トンから11万トンに)					P 38
7月	<b>水道機工(株)の連結子会社化による水処理事業の拡大</b> 水道機工(株)を追加株式取得により子会社化。東レ及び東レエンジニアリングの水処理システムプラント事業を集約、水処理事業を強化。					P 20 P 24 P 25

# 参考資料

# <ご参考> 炭素繊維複合材料の事業拡大(1)

米ボーイング社の次世代中型旅客機 B7E7 一次構造材料向けの炭素繊維複合材料について、同社との間で、2004年から2021年までの18年間に亘る長期供給に関する基本契約を締結。ボーイング社が1,500機生産する前提で、受注額は約3,300億円+

## B7E7(ドリームライナー)の概要

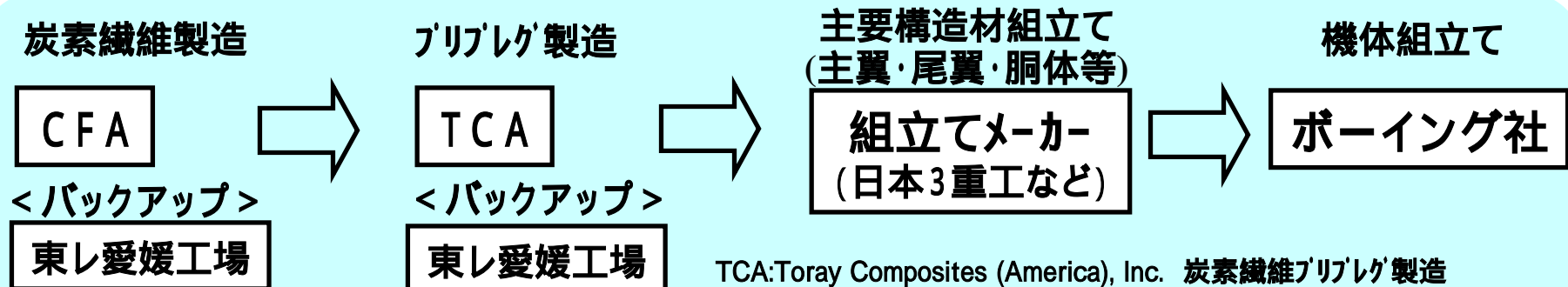


- シート数: 200 ~ 300
- 燃費効率: 同クラス比20%改善
- 航続距離: 6,500-16,000km
- 速度: マッハ 0.85
- 就航予定: 2008年
- CFRP: 約30t / 機
- 現時点の確定受注: 62機



炭素繊維プリプレグ

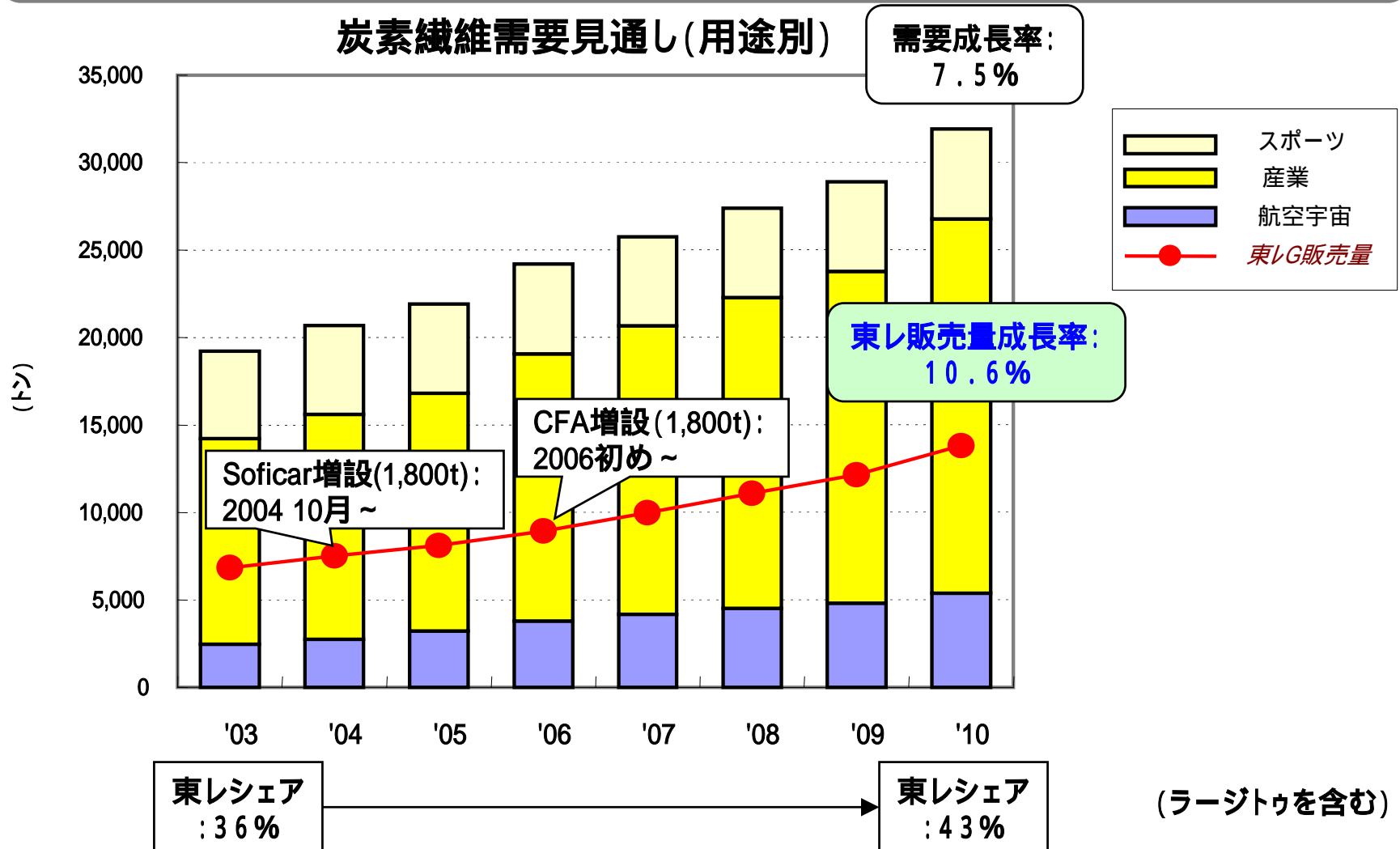
## 炭素繊維複合材料のサプライチェーン



TCA: Toray Composites (America), Inc. 炭素繊維プリプレグ製造  
 CFA: Toray Carbon Fibers America Inc. 炭素繊維製造

# <ご参考> 炭素繊維複合材料の事業拡大(2)

着実に成長する炭素繊維市場において、タイミングのよい投資により、リーディングカンパニーとしての地位を確固たるものとする。



## <ご参考> 東レフィルム加工(株)の設立(1)

国内フィルム事業の再編により、ベースフィルムから先端フィルム加工製品までの一貫営業・技術開発体制を構築し、マーケットにより密着した川下分野でのソリューションビジネスを展開する。

最重点領域は情報・通信材料分野、併せて、包装材料分野でのシナジーを高める。

### 「ベースフィルムから加工までの垂直統合型ビジネスモデル」への転換

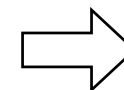
	情報・通信材料・工業材料用フィルム・加工製品			包装材料用フィルム・加工製品		
	ベースフィルム		加工製品	ベースフィルム		加工製品
主な製品	PET、OPP フィルム等	PEフィルム等	コーティング・蒸着 加工品(セパ ール、メロイール等)	PET、OPP フィルム等	無延伸PP、 ナイロンフィルム	蒸着加工品 (バリアロック等)
会社	東レ	東レ合成フ ィルム	東洋メタライズン グ	東レ	東レ合成フ ィルム	東洋メタライズン グ

#### <再編後の体制>

生産	東レ	東レフィルム加工	東レ	東レフィルム加工
販売	東レ	東レフィルム加工		

#### <東レフィルム加工の売上規模>

2004年度  
売上規模:約350億円



2009年度イメージ  
売上規模:約1,000億円



# <ご参考> 東レフィルム加工(株)の設立(2)

**情報・通信材料・工業材料用途:** 成長著しい情報・通信材料用途を最重点領域として事業拡大を図る。また、東レ 電情材本部との連携によりフィルム回路基板材料を強化・拡大する。

**包装材料用途:** グローバルオペレーションによる収益向上。高機能新製品の開発と、各種フィルムを複合した包装設計提案による新商流開拓によってNew Value Creatorを推進する。

## 情報・通信材料用途

- PDP前面板
- 液晶関連機能フィルム
- フィルム回路基板用途
- その他(タッチパネル、ICカード、ICタグ、等)

## 工業材料用途

- 既存用途(ラベル、コンデンサー、窓貼りフィルム、等)
- 新規用途(診断キット、等)

## 包装材料用途

- 既存用途(透明蒸着、レトルト用CPP、金属蒸着CPP/PET等)
- 新規用途(超ハイバリア・ヒートシラブル、等)

**最重点領域**  
東レグループとしての  
総合力を活かす。

### 製品例

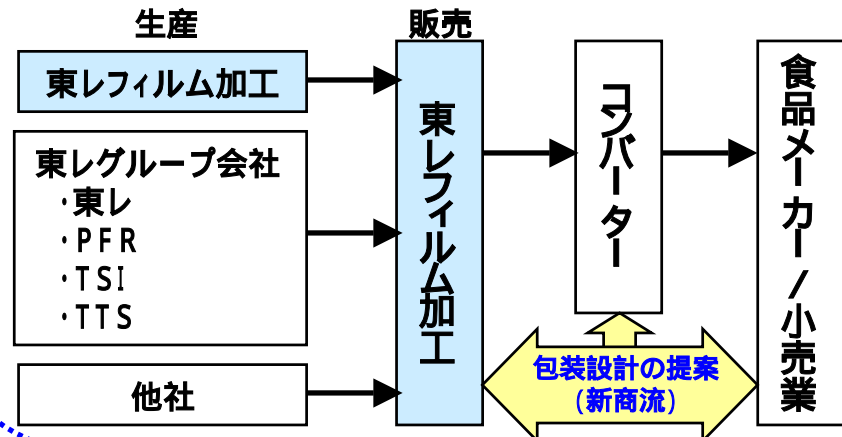


自己粘着性表面  
保護フィルム  
(FPD関連用途)



メッキ法2層  
COF材料

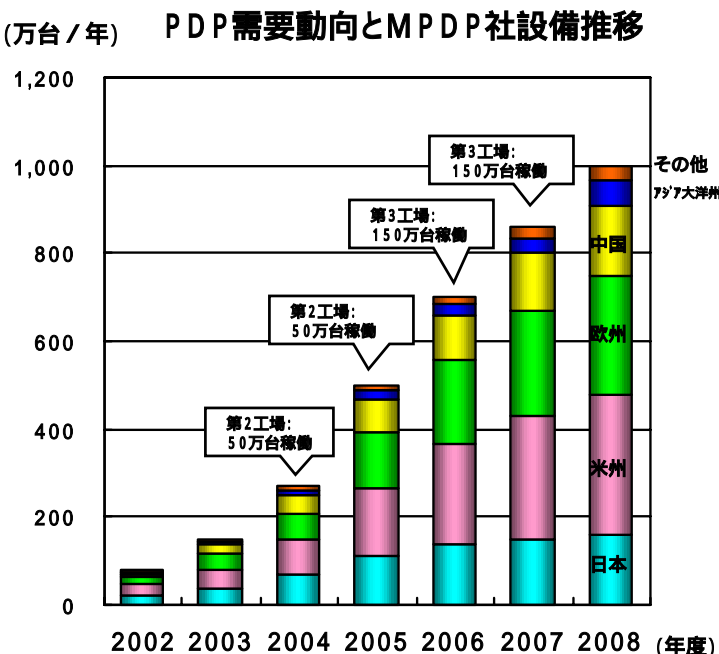
### <包装材料用途におけるNew Value Creatorの推進>





# <ご参考> 松下プラズマディスプレイ(株)(MPDP)の増設(1)

MPDP社(松下電器産業:75%、東レ:25%)は、フラットパネルディスプレイ市場が本格的な普及期に入りつつあることにより、年産で300万台以上の世界最大規模の量産工場の建設を決定。(東レの追加出資額:50億円、累計出資額:125億円)これにより、松下グループ全体で年産450万台の生産体制が整い、Global No.1を目指す。



03~08年におけるPDP市場の成長率見通し:40-50%/年

## MPDP社の強みを支える東レの技術 (感光性ペースト技術)

1. 高精度の加工が可能
  - (1) 高精細対応(Full-HDにも対応可能)
  - (2) 放電セルの形状均一性向上(発光効率向上・放電電圧低下)



2. 幅広い形状に対応可能
  - (1) 矩形形状・テーパ形状
  - (2) ストライプ形状・格子形状



3. 生産性が高い
  - (1) 工程が短い
  - (2) 露光時間が短い
  - (3) 多面取り対応が容易

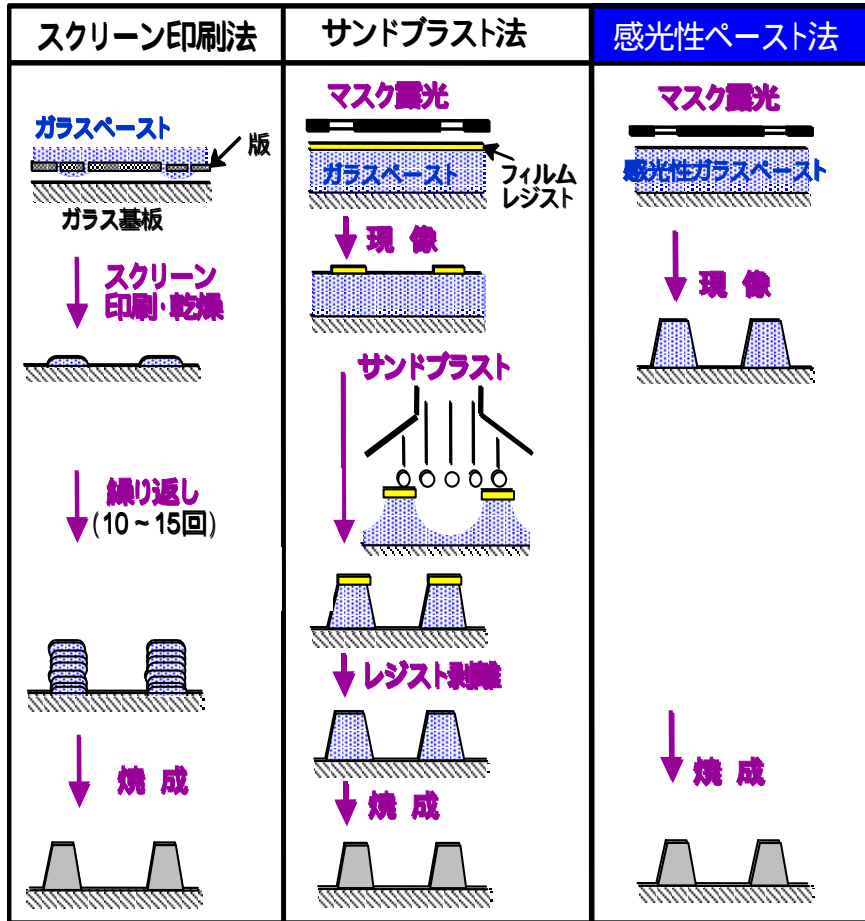
MPDP社の強み

技術優位性

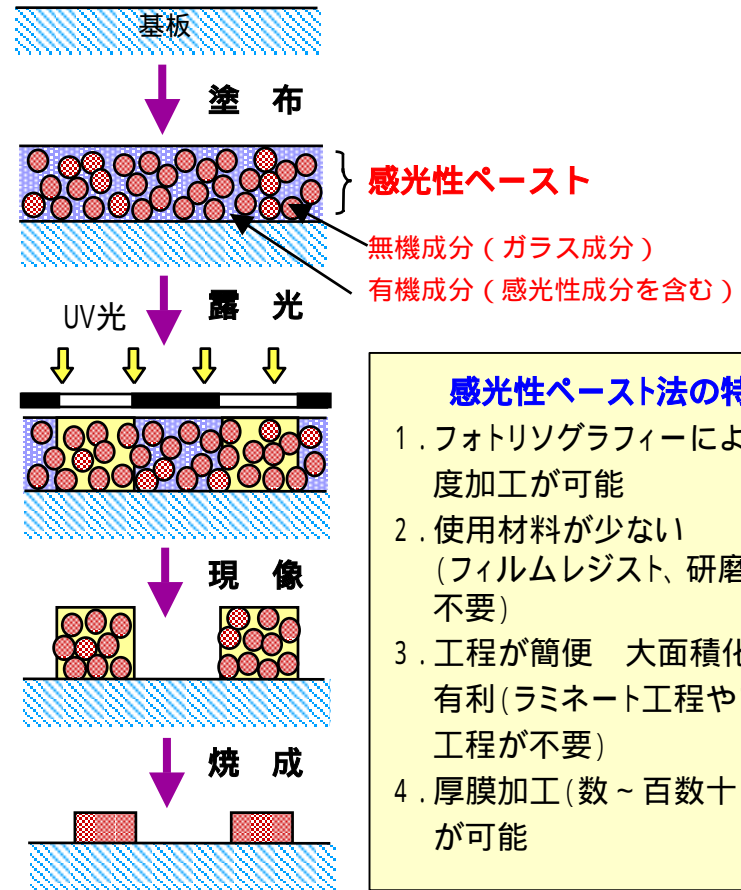
コスト優位性

背面板のキー技術である「感光性ペースト法による隔壁形成技術」が、MPDP社の技術優位性及びコスト優位性を支えている。

## 各種隔壁形成技術



## 感光性ペーストの加工プロセス



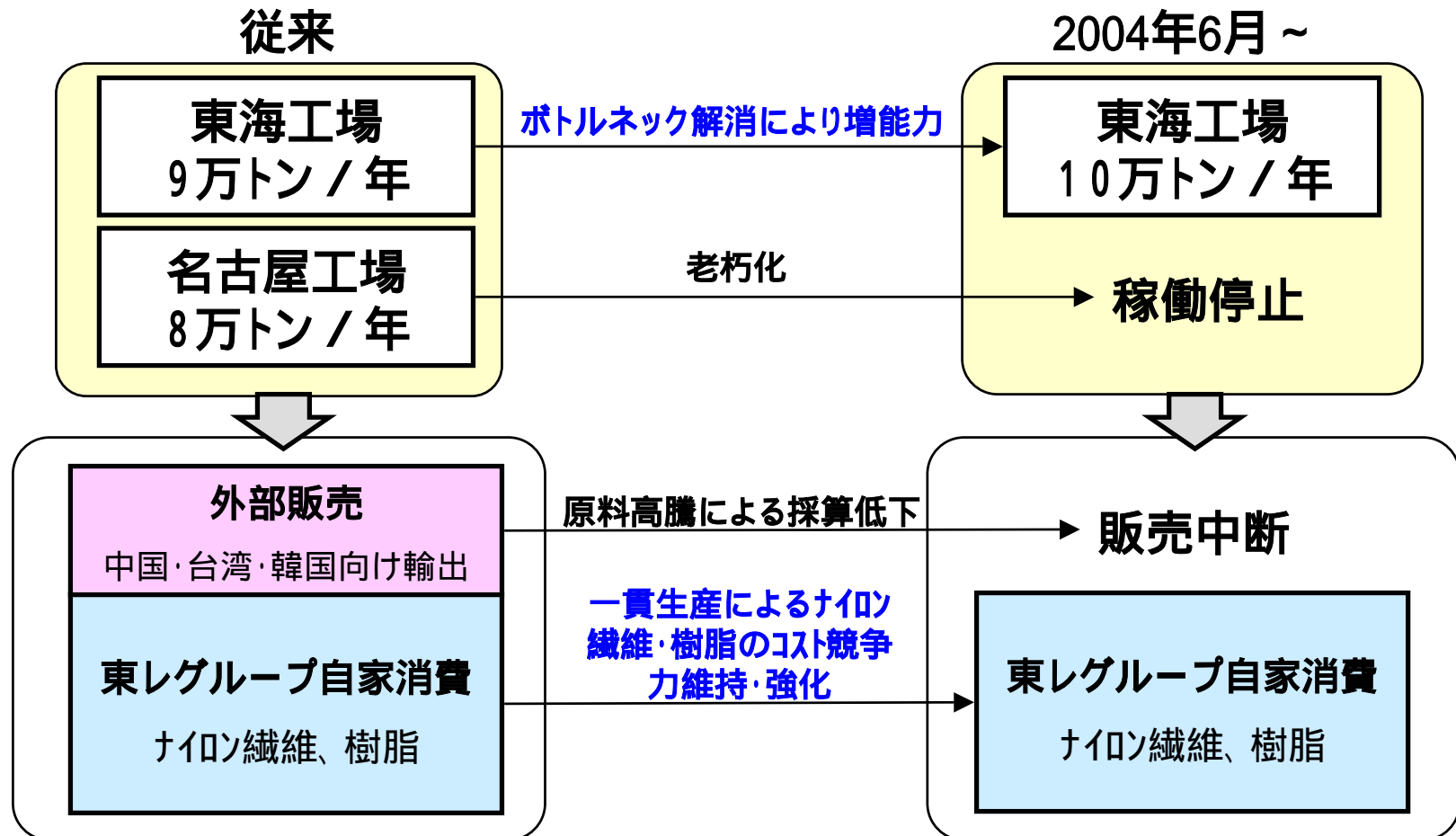
### 感光性ペースト法の特徴

1. フォトリソグラフィーによる高精度加工が可能
2. 使用材料が少ない (フィルムレジスト、研磨材が不要)
3. 工程が簡便 大面積化に有利 (ラミネート工程やブラスト工程が不要)
4. 厚膜加工 (数~百数十 $\mu\text{m}$ ) が可能

# <ご参考> カプロラクタムの生産体制集約

ナイロン繊維・樹脂原料であるカプロラクタムの生産を東海工場に集約し、一工場体制として効率化を図る。

原料高騰により、低採算の輸出外販は中断し、事業体質強化を図る。



## <ご参考>「東レ合繊クラスター」の発足

東レは、川中分野(織布、編成、染色、縫製など)における産地有力企業集団と連携を組み、東レ合繊クラスターを発足。原系・高次加工一貫の知恵と技術を融合させて、世界最強の合繊テキスタイル事業を更に強化する。

### 東レ合繊クラスター

**<産地企業集団>**  
(約70社)

委託加工グループ

自販グループ

先端材料グループ



**<東レ>**

先進国の大手企業が相次いで繊維事業から撤退する中、世界に類を見ない独自の繊維事業体制を展開。

<東レの独自性>

1. 高次加工との連携を重視し、原系・高次加工一貫の生産・販売体制を取る。
2. 海外との有機的連携により、原系・原綿からテキスタイルまでのグローバル・オペレーション体制を構築している。
3. 強力な研究技術開発力を保有している。

- ・東レは、高次加工との連携を重視し、原系・高次加工一貫の生産・販売体制を更に強化。
- ・「産地企業」は相互に相乗効果を発揮し、イノベーションと国際競争力を強化。

# <ご参考> 極薄ポリプロピレンフィルム(OPP)の生産能力増強

フィルムコンデンサの需要拡大に対応して、土浦工場に極薄OPPフィルム専用の生産設備を増設する。設備投資額は約30億円で、2006年5月の稼働開始を目指す。

東レグループのOPPフィルム生産能力(年産)			
	現状	増設	2006年5月
日本(土浦工場)	18,000トン	+1,500トン	19,500トン
アメリカ(TPA社)	37,000トン		37,000トン
<b>東レG全体</b>	<b>55,000トン</b>	<b>+1,500トン</b>	<b>56,500トン</b>
用途		<p>コンデンサ用途 東レOPPシェア (2004年予測)</p> <p>(5ミクロン以下) 世界シェア:33% 日本シェア:80%</p>	

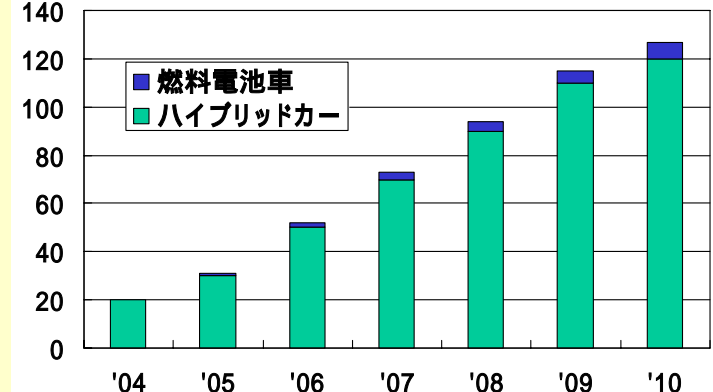
## フィルムコンデンサの成長領域 (ハイブリッドカー用途)

ハイブリッドカー用途はコンデンサの中でも要求特性が高く、当社製品が強みを発揮できる領域。業界のデファクトスタンダード確立を目指す。

フィルムコンデンサ用途にはOPPが最も適しており、フィルムコンデンサの需要拡大に応じて拡販が期待できる。

要求特性	OPP	PET	PPS
耐電圧性能	優	劣	劣
誘電率(小型化)	優	劣	劣
絶縁抵抗	優	劣	劣
温度上昇	優	劣	劣
最大使用温度	優	劣	劣
コスト	優	劣	劣

万台 世界のハイブリッドカー、燃料電池車市場見通し



## <ご参考> 厚物PETフィルムの生産能力増強

情報・通信材料分野などの工業材料用フィルムの需要急増に対応するべく、日本、マレーシア、韓国のアジア各拠点で厚物品種(25～500ミクロン)の生産能力増強を決定。

### <アジアにおける厚物PETフィルム生産能力推移>

		2004年	2005年末	2006年末	投資金額
既存設備 増能力・ 改造	韓国(TSI社)				
	日本(岐阜工場・滋賀事業場) マレーシア(PFR社)	70,000トン/年	90,000トン/年	95,000トン/年	85億円
新設	マレーシア(PFR社)	0トン/年	0トン/年	15,000トン/年	65億円
アジアにおけるPETフィルム厚物合計		70,000トン/年	90,000トン/年	110,000トン/年	150億円

東レPETフィルム生産能力合計	310,000トン/年	320,000トン/年	330,000トン/年
-----------------	-------------	-------------	-------------

### <アジアにおける厚物の主な用途>

分類	用途	需要の伸び (%/年)	2004需要 (千トン/年)	主な要求特性
工材用	電気絶縁、電子部品、(セラミックコンデンサ)離型、ラベル、テープ、熱転写リボン他	約5%	200	低コスト、品質安定性、少欠点、ハンドリング性、透明性、UL認定、平滑性(セラミックコンデンサ離型用)
光学用	液晶反射板、拡散板・偏光板用離型、タッチパネル、ARフィルム他	20～25%	40	高輝度、平面性、無欠点、ハードコート密着性等

本資料中の2005年3月期中間期業績予想、見通し、事業計画、並びに中期経営課題における予想・事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。